

わたしのお父ちゃん

その一ゼイムシヨって何？

松野弘子

わたしのお父ちゃんは

まじめ！

とてもまじめ！！

小学二年生の夏休み

お父ちゃんは

赤ちゃんを抱^だっこしたお母ちゃんと

何か話していた

その日

お父ちゃんは

私を事務所へつれていった

古い駅のホームにたつ

黒く長いたてものはしつこが

お父ちゃんの事務所だ

部屋に入ると

お父ちゃんは上を向いて

壁かべにかけられたいくつかの額がくを
指ゆびさした

“あれは お父ちゃんが

ゼイムシヨからもらった”

“カンシャジヨウというものだ”

部屋へやのやぶれたカベ板のすき間から

ところどころ

青い空がのぞいていた

それにしても

ゼイムシヨって何だろう

カンシヤジヨウって何だろう

なんだか

うれしいことなのかな？

わたしがこの前

先生から ほめられたように――

“この頃 算数ががんばっているね”って

お父ちゃんはときどき

夜

勉強をみてくれる

そうして

ガツカリした声で言うんだ

“式しきはあっている

でもどうして いつも

一たす一が 三になるんだ”

(注) お父ちゃんは明治四十五年生れ